

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0190501874		
法人名	株式会社リビングプラットフォーム		
事業所名	ライブラリ月寒中央 I		
所在地	札幌市豊平区月寒東3条9丁目1番10号		
自己評価作成日	2020/11/26	評価結果市町村受理日	令和3年1月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501874-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和2年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様が穏やかに暮らせるよう、家庭的な雰囲気を大切にし、調理や掃除等職員と一緒にいき、今まで家庭でしていたことを、やって頂ける環境づくりをしています。個々それぞれに合った、生活リズムを提供できるように、入居者様主体になるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市豊平区月寒の閑静な住宅地に位置し、3階建ての1階にある2ユニットのグループホームである。以前は1ユニットであったが、今年7月に雪ユニットがオープンした。昨年の10月に新築移転して、建物は3階建てで2階は同法人のグループホームで、3階は職員の休憩室と看護師の事務所となっている。地下鉄東豊線月寒中央駅から徒歩圏内、近隣にスーパーやドラッグストアなどがある利便性のよい地区である。法人は、札幌市や関東を中心に関西や東北にも拠点がある株式会社グループ会社で、認知症高齢者グループホームの他、有料老人ホーム、障がい者支援事業、保育事業など幅広く展開しており、培った経験を活かしている。ホーム内は、玄関を入るとユニットが事務所を挟んで左右対称に配置しており、食堂とリビングは中央に位置している。両サイドに居室があり、動線がコンパクトな作りの家庭的なホームである。これからも認知症高齢者介護に期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念・ホーム理念は毎朝朝礼時に唱和し、共通の意識を持つようになっています。	理念は事業所内に掲示されており、毎日朝礼にて職員で唱和している。また会議では他ユニットとも理念の共有を図り、実践に繋げるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所として町内会や地域の方と交流を持つため、行事に参加しようと思っています。今年度はコロナの影響で行えていません。	移転後、町内会との交流を意識し課題としてきたがコロナの影響で、日常的な交流が実施できない状況となっている。状況をみながら地域との繋がりを持てるよう、職員間で常に意識し努力を続けている。	コロナ禍の中で、地域の方々との交流は困難となっているが、地域に向けての情報発信や状況に合わせ可能な交流の方法が検討され、地域交流の深まりがある事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、町内会や地域の方、包括支援センターの参加を受けようとし、業務を理解していただけるようになっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや運営推進会議を通して協力できる環境を作っています。	ご家族や地域住民の方、地域包括支援センター職員が参加し、実施されていたが、コロナ禍により来訪制限となり、現在は事業所内職員のみの実施となっている。電話や書面等のやり取りにて情報交換、意見交換し、サービス向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや運営推進会議を通して協力できる環境を作り、内部研修や外部研修を行っています。	運営推進会議の他、都度地域包括支援センター職員や区役所職員と連携し、内部研修や外部研修を通し職員にも伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束抑制廃止委員会があり、委員会を中心として、外部の研修を受けたり、内部研修を行い会議の中で話し合いを行っています。	3ヶ月に1度、身体拘束抑制廃止委員会を開催しており毎月の勉強会でも話し合いを行うほか、都度言葉使いや接遇で気になるところがあった際は朝礼で話し合うなどしながら身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関わり方が虐待にあたらないか、拘束していないか、サービス提供のあり方を会議で話し合いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援事業は利用している方はいませんが、成年後見人制度を利用する方がいるため、研修を行い理解しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を見ながらご家族様・ご本人様に、口頭で説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出入り口に面会票を置き、意見箱を設置。会議で意見など検討しています。	今年度よりご家族へアンケート調査を実施している。2ヶ月に1回ホーム便りも発行し、ご家族に送付して運営状況の報告をしている。ご家族からのお手紙を頂く事も増え、運営やケアへの反映に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や朝礼時・普段の会話の中で提案や意見を聞き、管理者会議などで、検討しています。	年に4回の個別面談を実施し、月1回のユニット会議の際も話し合いの機会を設ける事で、職員の想いや意見を反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回の自己評価・4回の面談を行うほか、職員さんと近い距離で話ができるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や内部研修等行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者連絡会議を通し、他事業所と連携をとることとしています。今年度は行えていません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からご家族様やご本人様の意向を確認しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居判定や見学の際、ご家族様が安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状況を把握し、適切なサービスの提案を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念のもと職員と入居者様が家事・買い物・会話できる状況を作っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム通信や運営推進会議で行事の参加を促しています。電話等でも常に連絡を取っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医やなじみの人との面会を行う。	居室での面会は自粛せざるを得ないが、窓越しでの面会の実施や電話・差し入れの実施が多くなっている。又なじみの訪問理美容の利用も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・レク・散歩入居者様同士が関われる時間をもっています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先への情報提供・退居された方のご家族へ連絡をして状況を聞いています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご家族やご本人様とお会いして生活履歴等情報を集めています。	外出や外食などは実施困難な状況となったが、利用者から好みを聞いてその日のおやつにする等、工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会議・申し送りで状況を見極め、都度援助の検討を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録観察・申し送り等で情報共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を作り、担当職員を中心として計画を立てる。医師や看護師からの意見も取り入れ作成する。	居室担当者が中心となりモニタリングやアセスメントを行いケアプランの原案を作成後、ユニット会議で職員全員で回覧し共有。その際に内部の看護師や医師の意見も取り入れている。ご家族には計画作成担当者より連絡し、ご意向を伺い反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の様子を職員同士で共有する。チェック表などを利用しケアプランはすぐに確認できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や往診・鍼灸往診等 ニーズに合わせる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への行事の参加・外出をしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への継続等希望をそのまま継続。往診時紹介状をもらい受診できる環境を作っています。	希望があればかかりつけ医の受診をそのまま継続し、ご家族の同行にて受診実施している。協力医療機関の往診は月2回実施されている。週1回の定期と変化のあった際は内部の看護師がオンコールで対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が勤務。入居者様の健康管理を行う。24時間オンコールの体制。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師から看護添書など情報提供してもらい入院中は、管理者・職員・看護師がお見舞いに行き状況を聞きます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における方針を説明しています。看取りについてもお話しをしています。	重度化や終末期については、入居契約時に説明し同意を得ており、看取りの対応にも努めている。重度化した場合には、医師と家族と相談の上、意向を確認し看取りの契約をして医師と連携して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し会議で説明。研修を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回ほど避難訓練を行っています。	避難訓練は消防署の指導の下、火災2回、地震、水害それぞれ1回の訓練と毎月1回、内部訓練を実施し、新人職員の入職後も対応方法が理解できるようにしている。備蓄や備品も整備して災害対策を行っている。	備蓄や備品を整備して、避難訓練を定期的に実施しているが、今後は地域の参加協力も期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や朝礼で職員に落とし、注意しています。	年に1回の接遇研修の実施と、都度気になるところがあれば声を掛け合い人格の尊重と、プライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が話しやすいように傾聴しています。表情や話し方・しぐさにも注意し寄り添っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1日の流れを押し付けるのではなく、ご本人様のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご洋服等ご自身で選んで頂いています。訪問美容も来ていただき髪の毛のおしゃれも楽しんでいただく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に作ってくださり、希望のメニューの変更をしています。片付けも一緒に行っています。	献立と食材は外部委託。調理は職員が実施し、感染対策を行いながら当番制で利用者にも片づけに参加していただくなど、一緒にできる部分の工夫をしている。行事食は、出前の寿司やケータリングラーメン、串カツバイキングなど外食は出来ないが楽しみな食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事がわかるようにチェック表を作成し常に把握できる環境にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの促し介助を行う。衛生士さんにもきて頂き、口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を見て、排泄誘導・介助・声掛けを行う。チェック表を作りいつ行ったか分かるようにしています。	チェック表を作成し参考にしつつ、個別に利用者の表情やしぐさをみながら、タイミングに合わせた声掛けや誘導を実施し、自立に向けた支援ができるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとって頂くように声掛けを行う。便秘体操等も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週に2回の入浴を行う。ご本人様の希望があれば都度入浴を行っています。体調不良や外出等で入浴できなかった場合は振替入浴を行っています。	浴室はリフト浴が一つあり、車いすの利用者に配慮している。入浴は週に2回、一般浴とリフト浴の浴室で利用者の希望や体調・状態に合わせて実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の状況に合わせて、無理はせず、ゆっくりしていただくときはして頂く。居間に来られた時は職員と入居者様と談話していただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルしすぐに確認できるようにしています。薬が変わると、申し送り等で情報共有し受診往診記録などにも記し、情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせたプランを立て、役割を持っていただく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出は天気が良い日に行っています。外出レクリエーションや外食等出かけられる環境を企画書等立て作っています。	新型コロナウイルス感染症対策で、少人数での散歩は実施している。状況が落ち着いた際は、外出や外食など利用者の希望に沿った支援を企画している。	お正月の帰省等個別での対応は検討されている。今後は新型コロナウイルス感染症の状況に合わせて、家族と一緒に外出計画に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理されている方は買い物等ご自身でお金を払い買い物される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望により電話をかけたたり手紙を書いたりする。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	引っ越しをして広くなりきれいになりました。広い空間で体操したり、談話しています。	新築の建物で、共用空間も明るく、利用者が体操や食事の際もゆったりと過ごせる空間となっている。台所は対面カウンターとなっており、各居室や居間が見渡せる配置となっている。採光や風通しもよく、利用者はリビングで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人にはなれませんが、一人の空間は居室にて保たれています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様のなじみの家具を使用していただく。	入居時にお仏壇や1人掛けのソファ等なじみの家具を持参される方もいる。各居室には備え付けのクローゼットやベット、物干し棒があり、入居後も居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのマークを付けたり、居室に名前を貼ったりしています。		